



2018年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2018年8月8日

上場会社名 株式会社 日本マイクロニクス 上場取引所 東
 コード番号 6871 URL http://www.mjc.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長谷川 正義
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長 (氏名) 齋藤 太 TEL 0422-21-2665
 四半期報告書提出予定日 2018年8月9日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2018年9月期第3四半期の連結業績（2017年10月1日～2018年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2018年9月期第3四半期	21,828	3.4	2,436	146.2	2,587	144.9	1,978	229.3
2017年9月期第3四半期	21,108	10.9	989	△20.0	1,056	△5.9	600	8.1

(注) 包括利益 2018年9月期第3四半期 2,134百万円 (27.5%) 2017年9月期第3四半期 1,673百万円 (228.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2018年9月期第3四半期	50.78	—
2017年9月期第3四半期	15.36	15.32

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2018年9月期第3四半期	37,056	24,614	63.4
2017年9月期	36,502	23,281	60.2

(参考) 自己資本 2018年9月期第3四半期 23,506百万円 2017年9月期 21,992百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2017年9月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2018年9月期	—	0.00	—		
2018年9月期（予想）				15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2018年9月期の連結業績予想（2017年10月1日～2018年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,100	5.8	3,000	98.8	3,200	103.4	2,300	99.2	59.04

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

連結業績予想の修正については、本日（2018年8月8日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
除外 1社（社名） 株式会社MJCテクノ

（注）詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動）」をご参照下さい。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2018年9月期3Q	40,025,316株	2017年9月期	40,025,316株
② 期末自己株式数	2018年9月期3Q	1,070,148株	2017年9月期	1,070,044株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2018年9月期3Q	38,955,266株	2017年9月期3Q	39,100,084株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照下さい。

（四半期決算補足説明資料の入手方法）

四半期決算補足説明資料は2018年8月8日に当社ホームページへ掲載予定であります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、主要国による保護政策の強化等、不安定な要素は多々あるものの、2017年に引き続き、堅調に成長し続けています。日本国内におきましても、低迷していた個人消費が緩やかに回復するなど、景況感は概ね改善方向に進んでいます。

半導体市場においては、以前はスマートフォン等の特定製品が半導体需要に大きな影響を及ぼしていましたが、データセンター、自動車、ロボット、AI(人工知能)等の分野で半導体消費が増え、制御が高度化・複雑化したばかりではなく、処理されるデータ量も増加した事で、今後もロジック・メモリ共に需要の安定的な成長が見込まれています。一方、FPD市場においては、スマートフォン向けOLEDが、価格面でのボトルネックにより需要が想定より伸びず、需給調整に時間を要すると見られますが、LCDパネルの需要が底堅く推移すると予想され、需要等の伸びは総じて横ばいと見込まれています。

このような状況の下、当社グループは、長期的に当社が目指す姿を纏めた『MJC Future Vision』を策定し、「QDCCSS※を更に推し進めて品質と納期での競争力を高め、市場へ安心・安全を提供する事で『より豊かな社会の発展に貢献』する」企業を目指す活動に注力してまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高21,828百万円(前年同期比3.4%増)、営業利益2,436百万円(前年同期比146.2%増)、経常利益2,587百万円(前年同期比144.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益1,978百万円(前年同期比229.3%増)となりました。

※QDCCSS(呼称:クダックス)

お客様の信頼を得ることが大切との考えから、製品の開発から製造、資材、物流、管理、システム構築のあらゆる段階において、次の6つを活動テーマとしてその改善及び改革に全ての社員の力を結集する当社独自の総合管理システム。

[6つのテーマ]

Q : Quality	(技術の向上・品質の維持)
D : Delivery	(納期の厳守)
C : Cost	(原価の低減)
C : Compliance	(法令遵守)
S : Service	(サービスの充実)
S : Safety	(労働・製品の安全)

<セグメントの状況>

(各セグメントの売上高は、外部顧客に対するものであります。)

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

① プローブカード事業

プローブカードは、ロジック分野での拡販が想定より進まず伸び悩みましたが、メモリ分野では、NAND向けが好調に推移したことで、全体としては増収となりました。利益面におきましても、受注高増加で稼働率が向上、及び製品構成が変化したことで増益となりました。

この結果、売上高は19,031百万円(前年同期比14.5%増)、セグメント利益は3,970百万円(前年同期比123.6%増)となりました。

② TE事業

TEは、プローブユニットを含めたFPD検査関連において、顧客の装置導入が進んだことで前年同期よりも売上高が増加したものの、前連結会計年度の業績に貢献した半導体検査装置の需要が減少した影響で、全体としては減収となりました。

この結果、売上高は2,796百万円(前年同期比37.7%減)、セグメント利益は290百万円(前年同期比68.0%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ554百万円増加し、37,056百万円となりました。これは主に、棚卸資産が747百万円、有形固定資産が280百万円それぞれ増加し、現金及び預金が529百万円減少したこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ779百万円減少し、12,441百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が527百万円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,333百万円増加し、24,614百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加1,588百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の市場動向等を踏まえ、2018年5月9日に公表した2018年9月期通期業績予想を見直しました。詳細につきましては、本日(2018年8月8日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,756	9,227
受取手形及び売掛金	7,862	7,675
製品	503	416
仕掛品	2,638	3,123
原材料及び貯蔵品	1,033	1,382
その他	1,099	1,314
貸倒引当金	△55	△73
流動資産合計	22,838	23,067
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,555	3,630
機械装置及び運搬具(純額)	2,389	2,518
その他(純額)	3,242	3,318
有形固定資産合計	9,187	9,467
無形固定資産	958	1,002
投資その他の資産		
投資有価証券	2,953	2,972
退職給付に係る資産	72	40
その他	658	670
貸倒引当金	△167	△164
投資その他の資産合計	3,517	3,519
固定資産合計	13,664	13,989
資産合計	36,502	37,056
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,195	4,667
短期借入金	769	1,051
未払法人税等	263	301
賞与引当金	562	352
役員賞与引当金	40	—
製品保証引当金	479	372
その他	2,503	2,140
流動負債合計	9,813	8,886
固定負債		
長期借入金	602	694
退職給付に係る負債	1,795	1,844
その他	1,010	1,015
固定負債合計	3,408	3,555
負債合計	13,221	12,441

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2017年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,018	5,018
資本剰余金	5,976	5,934
利益剰余金	10,011	11,600
自己株式	△943	△943
株主資本合計	20,063	21,610
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,661	1,673
為替換算調整勘定	180	163
退職給付に係る調整累計額	86	60
その他の包括利益累計額合計	1,928	1,896
新株予約権	193	234
非支配株主持分	1,095	874
純資産合計	23,281	24,614
負債純資産合計	36,502	37,056

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2016年10月1日 至 2017年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年6月30日)
売上高	21,108	21,828
売上原価	13,716	13,248
売上総利益	7,392	8,579
販売費及び一般管理費	6,402	6,143
営業利益	989	2,436
営業外収益		
受取利息	15	14
受取配当金	13	120
受取賃貸料	55	54
その他	35	26
営業外収益合計	120	215
営業外費用		
支払利息	13	7
為替差損	19	35
その他	20	21
営業外費用合計	53	64
経常利益	1,056	2,587
特別利益		
固定資産売却益	0	6
新株予約権戻入益	2	—
特別利益合計	3	6
特別損失		
固定資産売却損	2	—
固定資産除却損	0	6
特別損失合計	3	6
税金等調整前四半期純利益	1,056	2,587
法人税、住民税及び事業税	304	479
法人税等調整額	7	△37
法人税等合計	312	441
四半期純利益	744	2,145
非支配株主に帰属する四半期純利益	143	166
親会社株主に帰属する四半期純利益	600	1,978

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2016年10月1日 至 2017年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年6月30日)
四半期純利益	744	2,145
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	420	11
為替換算調整勘定	510	3
退職給付に係る調整額	△1	△26
その他の包括利益合計	929	△11
四半期包括利益	1,673	2,134
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,436	1,945
非支配株主に係る四半期包括利益	236	188

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

当社の連結子会社でありました株式会社MJCテクノは、2017年10月1日付で当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2016年10月1日至2017年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1.	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2.
	プローブ カード事業	TE事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	16,623	4,485	21,108	—	21,108
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	16,623	4,485	21,108	—	21,108
セグメント利益	1,775	906	2,681	△1,692	989

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,692百万円は全社費用であり、報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2017年10月1日至2018年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1.	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2.
	プローブ カード事業	TE事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	19,031	2,796	21,828	—	21,828
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	19,031	2,796	21,828	—	21,828
セグメント利益	3,970	290	4,260	△1,823	2,436

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,823百万円は全社費用であり、報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。